

## 神奈川県横浜市青葉区における木造ハイブリッド構造の集合住宅開発について

この度、相互住宅株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：永山篤史）は、第一生命グループとして行っている持続可能な社会の実現へ向けた取組の一環として、神奈川県横浜市青葉区において中層建築物における木造ハイブリッド構造の集合住宅の開発（以下、「本計画」）を行うことといたしましたので、お知らせします。

### 1. 本計画のコンセプト

- ①第一生命グループ初の木造ハイブリッド構造の賃貸マンション開発
- ②地産木材の利用による地域活性化への貢献
- ③施設利用者のQOL<sup>(※1)</sup>向上への取組
- ④郊外の好立地における賃貸住宅の供給

(※1) “Quality Of Life”の略。物理的な豊かさだけでなく、精神面を含めた豊かさを意味します。

#### ①第一生命グループ初の木造ハイブリッド構造の賃貸マンション開発

地球環境にもやさしく、地域経済や林業・木材産業の活性化にも寄与する素材である木材を利用した木造建築は、国内外で注目が高まっています。本計画では、一般的にRC造の集合住宅ではコンクリートが使用される柱などの構造体の一部のほか、内・外装の仕上材の一部にも木材を採用するなど、より多くの木を使用するように計画を推進します。第一生命グループにおける、木造ハイブリッド構造の賃貸マンションの取組みとしては本計画が初の事例となります。



建物外観・エントランス完成予想図

## ②地産木材の利用による地域活性化への貢献

本計画で使用する木材の一部は、神奈川県が主導する、「かながわ県産木材品質認証制度」に基づく「かながわブランド県産木材」を含む神奈川県産材を主として、国産材を使用する予定です。「かながわ県産木材品質認証制度」は神奈川県産木材の普及やさらなる神奈川県産木材の消費拡大を図ることを目的に神奈川県が創設した制度であり、本計画では「かながわブランド県産木材」の積極的な利用を通じて、森林資源の循環利用<sup>(※2)</sup>及び地域活性化への貢献を目指します。

(※2) 森林資源の循環利用（植える→育てる→使う→植える）を推進することで、適切な森林整備が確保されるとともに、将来にわたる木材の利用が可能となります。

## ③施設利用者の QOL 向上への取組

竣工後の建物は、賃貸マンションとして、運用する予定です。エントランスホールや居室内の内装の一部を木材で仕上げる等、建物外観～エントランスホール～居室のそれぞれで木の風合いを感じられる空間構成、木のぬくもりを感じられる施設計画により、施設利用者にやすらぎを与え、一層の QOL 向上、健康増進<sup>(※3)</sup>等を図ります。また、建物外部への木材使用については日射の少ない方位への設置や雨掛かりを防ぐ工夫により、長い期間木材を楽しめるしつらえとします。

(※3) 木材はリラックス効果やストレス緩和、集中力の向上等、人の心や体に良い影響を与えることが明らかになってきています。



室内完成予想図

## ④郊外の駅近立地における賃貸住宅の供給

本件の所在する「青葉台駅」は東急電鉄田園都市線の急行停車駅です。駅の周辺には 100 以上の店舗が営業する「青葉台東急スクエア」をはじめとする生活利便施設も集積しており、沿線の人気駅の一つです。本件現地から青葉台駅へは徒歩 2 分の距離に位置しており、最寄駅にほど近い好立地を生かして、上記のような環境配慮取組による賃貸住宅を供給します。

## 2. 持続可能な開発目標(SDGs)への貢献

2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成される国際目標が定められており、様々な主体が連携しての取組が求められています。本計画では、木材使用による森林資源の循環利用や建設時のCO2排出量削減等により、林業・木材産業の活性化や環境問題への配慮等に取り組んでいくことで、特に以下の6つの目標への貢献を目指します。



### 【物件概要】

所在地	神奈川県横浜市青葉区青葉台二丁目
用途	共同住宅（賃貸向け集合住宅）
規模	階数：地上6階建 延床面積：約1,000㎡
構造	ハイブリッド木造（鉄筋コンクリート造＋一部木造）
竣工	2023年12月（予定）
建築主	相互住宅株式会社
設計・施工予定者	前田建設工業株式会社

本資料中の記載・イメージパース等は計画段階のものであり、今後変更が生じる可能性があります。